

1 工程@1円～知的障害者の労働現場

28 : 音

千葉 晃央

都市設計の弱点

人生の半分を京都で暮らしています。京都では3世代にわたって京都で暮らさないと京都人とは言わないとききます。そういう意味ではまだまだ20年程度です。他にも、こんなことを先日は聞きました。「京都」という都市の設計についてです。京都の気候を表現するときに「夏は暑く、冬は寒い」とよく言われています。けれども、京都は冬に関しては都市設計、住宅文化において無策に近いという見方をきいたのです。たしかに、年3回は京都市内でも雪が積もり、交通状況が乱れます。今年も市内の北部では数十センチの単位で積雪した日もありました。車がノーマルタイヤでスリップをして、西大路通りの緩やかな坂が上れない光景もこれまで複数回見えています。では、なぜ冬に無策になったのかは京都の夏を語らなければなりません。京都の夏は酷暑です。特に湿度が高い。そして、その暑さをしのぐために、エアコンがない時代から様々な工夫をしてきた歴史があります。「京都の冬は底冷え」ともよく評されますが、その所以は、暑さ対策の方に気を取られているからではないかという話でした。確かに京都

の夏は暑い。大阪で育った私が暑いと感じます。今日もひどい暑さでした！というニュースを見るとコンスタントに全国で4番目ぐらいには常に京都が入っている感じがします。そのため、床、川床、打ち水など様々な方法で暑さをしのいだり、暑さを楽しんだりする文化が根付いています。

現代では、夏の京都での生活は当然エアコンの冷房に頼り切っています。空調が天井に設置されているというのが京都の建物ではよくあります。そうすると冷気が下に降りるので夏の冷房がよく効きます。逆に、冬のエアコンはなかなか効きにくいです。暖かい空気は天井に設置されたエアコンから噴出されても、上にとどまったままになっていると感じることも多いです。そのため家庭の多くでは灯油やガスによる暖房も用いています。

京都の夏は基本的にエアコン、フル稼働！2016年猛暑日日数ランキングでも京都は全国4位。熱帯夜も多く、朝も冷えることはありません。当然、私の現場でも朝から終業まで冷房は使用することになります。京都の夏は、夏休みの観光客も多く、観光産業関係のお土産もの、お菓子関係の仕事が忙しくなる時期でもあります。それ

は逆にいうと稼ぎ時です。そのため、残業をしてでも何とか乗りきろうということも起こる時期でもあります。

酷暑による騒音問題

残業をしていた職員が冷房の電源を切るのを忘れて、帰宅してしまったことがありました。電気代が無駄になったのはもちろん、一日中、夜中から早朝までエアコンの室外機が作動する音が問題になりました。都市部に立地したその施設は、隣の住宅とも近く、今でこそ、熱中症対策で朝も昼もエアコンを入れっぱなしにすることが推奨されるようになりましたが、少し前までは、夜はエアコンを切る方が体にもいいし、節電にもなる（電力制限もありましたよね）といわれていました。翌朝、住民の方から施設の建物に張り紙がされていました。そこにはマジック太字で音に対する苦情が書かれていました。音だけでなく、火災などの危険も当然ついてくるため、このようなお叱りを受けるのは当然です。謝罪に伺うことから翌日の勤務は始まりました。90年代までよく話題になったのは、山の中に福祉施設がつくられるのはおかしい！地域からの隔絶である！それまで暮らしてきた都市部にも福祉施設があることがノーマルで利用者の生活の質を守る上でとても大事だという施設立地の偏りの話題でした。そして、都市部での施設ができ始めると、施設建設反対運動に始まり、できた後も窓から見えないようにして欲しい、作業の時に使う工作機械の音を何時までにして欲しい、朝のラジオ体操はうるさいからやめて欲しい

い…そのような声を頂戴することが起こりました。こうした地域の方々のご理解も求めて運営していくのが、知的障害者の労働現場の使命となっています。地域での清掃活動、地域のイベントへの参加、近隣商店を消費者として利用すること等、様々な住民の方々との共通の経験も大切にしながら地域で同じ時代を一緒に歩んでいます。

施設を狙うドロボウ

ある施設では作業時間終了後の掃除の時間に、音楽をかけています。その音楽は、その日の日直の利用者さん、もしくは職員が選曲をしています。その施設には、職員の日直、利用者さんの日直があり、それぞれに役割がありました。利用者さんの日直の役割は、朝の朝礼に向けての放送、朝礼の司会、昼食時の「いただきます」、「ごちそうさま」、昼からの作業開始を知らせる放送、そして掃除時間の音楽、終礼の司会等です。

一方で職員の日直の仕事の中でも大事なことのひとつが戸締りでした。日直ができるだけ最後に職場を後にし、なおかつその時には一人では夜も遅くなると危険なので、できるだけ複数で戸締りをして退勤をするよう職員相互に協力をしていました。

これまで、福祉施設だけを狙った泥棒も出没してきました。福祉施設は比較的警備が厳重ではないと目をつけられ、複数の福祉施設が狙われ、被害にあってきました。事務所の机の中のお金やパソコン、デジカメなどが盗まれています。また数年前は複数の福祉施設のエアコンの室外機が狙われ

た時もありました。昨年の相模原の事件以降、防犯カメラの設置などの動きが少しずつ広まってきています。これまでも高齢者施設領域ではこうした動きがすでに進んでいました。障害者施設は今回の事件をきっかけにした防犯カメラ設置が広がる動きを感じています。現場ができることはカメラの設置、施錠の強化（二重施錠、机、棚の施錠）などで、できるところからやっていくしかないというのが実感です。

ヘビーローテーションで踊れます

掃除の時間の話に戻りますと、掃除の時間にかかる音楽は、利用者さんが持って来てくれた曲で様々なジャンルがありました。地元関西の阪神タイガース応援歌『六甲おろし』、光 GENJI の『勇気 100%』（今もジャニーズの後輩たちが歌っていて NHK アニメの主題歌で現役ですね）、スマップの『世界に一つだけの花』（24 時間テレビの主題歌だったので人気絶頂のアイドルスマップが同番組に出演したので利用者さんに大人気でした）、慎吾ママの『おはロック』（アイドルはやっぱり人気）などテレビではやったものや、以前の施設の行事でみんなが歌ったり、踊ったりした歌もよく掃除時間にオンエアされました。利用者さんといく行事でのカラオケでも、このようなみんなの思い出になっている曲は人気があります。そして、私自身もそうした思い出になっていることをうれしく思っています。AKB48『ヘビーローテーション』も、サザンオールスターズの曲も（熱烈なファンの方がいらっしゃいます）、私には利用者さん

との思い出でもあります。私が日直の時に、なじみがあるかなと思いレンタルで仕入れたアニメの主題歌をかけたこともあります。「千葉君はアニメおたく？」というツッコミを受けたり、冷静に考えると成人の利用者が働く施設なのにアニメの歌ばかりが聞こえてくるのもどうなのか？取引先の一般企業の方が来られた時にどう感じるだろう？とか、利用者の方が盛り上がり過ぎて疲れてしまうこともあって、そういう選曲の偏りはすぐやめました。

音や歌を聴いた人も影響を受けます。作業中には好きな歌をうたいながら仕事をすることもおられます。隣で作業をしていて、その一人で歌う声を嫌がる方もいますし、時には一緒に歌う方もいます。嫌がる方とは作業場の配置や作業部屋の配属で調整が必要になることもあります。聴覚過敏のような特徴もお持ちの方も一定おられます。作業の中で労働哀歌のようなものが生まれることもあります。「どっこいしょ」「あいよ」「あらよつと」「へいへいほー」「はい、これ食べて！」「もういいって」などの掛け声等も、仕事に追われている状況で心が和むこともあります。そういった掛け合いのやり取りをしながら、仕事をしている自分たちを鼓舞しているようなところもあります。仕事にはリズムも雰囲気もとても重要なときがあります。

マイクを前に緊張

放送やマイクには興味を持たれる方も多いです。そういった機器はデリケートで故障もつきものです。先ほどの日直の仕事で

は施設内に放送をします。「作業が始まります。準備をして作業場に集まってください」このような放送をするかどうか議論があるところです。「放送がなくても自律的に動こう、放送はいらない」という意見、「動くきっかけ、日直の役割として放送がある方がいい」という意見、両方があります。各施設が実情に合わせて選択しているように思います。マイクや音響設備は職員事務室にあることが多く、電源をオフにし忘れると事務所の会話がまる聴こえになります。こうした切り忘れがないか確認をすることも日常の業務です。

日直の利用者さんがマイクで「おはようございます。朝礼をしますので集まってください」「作業開始10分前です。準備をして作業場に集まってください」等言う時は、いつもは饒舌な方も、多くの人に聞こえると思うと緊張されたり、日直という役割を意識してはっきりとした口調で話されたり。複数の利用者さんが当番として、日直をしているときは、一方の日直の方がマイクで先に話してしまっ、慌てて私も！とマイクのある事務室に駆け込んできて放送をされることもあります。こうした職務を貫徹しようとする姿勢に脱帽することも多いです。休み時間には自分で持ってきたCDを聞いて過ごしたい利用者の方もおられます。施設にあるCDラジカセを使う方もおられるのですが、台数が限られているため、譲り合いが必要になることもあります。図書館で借りてきたCDをかける方、長年決まった曲をかけるのを楽しみにされている方もいて、それぞれが昼休みを音楽を聴いて楽しく過ごされています。

1.17~3.11

施設での音について取り上げました。最後に触れるのは、学生時代から聞いていたバンド、ニューエスト・モデルの中川敬さんが阪神淡路大震災でみた光景を歌った『満月の夕』と書いて「まんげつのゆうべ」と読む歌（作詞 中川敬、作曲 中川敬 & 山口洋）です。東日本大震災でもこの歌が再度注目をされ、中川敬さんもソウル・フラワー・ユニオンとして現地を訪れて演奏をされています。お世話になった先輩が日直の時はこの曲をかけておられました。利用者さんもこの曲のファンになって、口ずさみながら掃除をしている光景もよくありました。今でもこの曲を聴くと私もうたいますし、当時の利用者の方々、先輩の姿を思い出す曲です。私が、この仕事を始める前年に阪神淡路大震災があり、15年目に東日本大震災がありました。2011年3月11日は京都の施設で利用者の方々と一緒に揺れを感じました。こうした記憶も、曲の思い出も、施設の歴史経過とともに、利用者さんや職員に共有されながら時間は刻まれているのです。下記は私が聴いたときの印象に基づいた表記です。本来の歌詞の表記は異なります。

風が吹く港の方から、
 焼け跡を包むようにおどす風。
 悲しくてすべてを笑う、乾く冬の夕べ。

時を超え、国境線から
 幾千里のがれきの町に立つ。
 この胸の振り子は鳴らす、

“今”を刻むため。

飼い主をなくした柴が
同胞とじゃれながら車道（みち）をゆく。
解き放たれすべてを笑う、
乾く冬の夕べ。

ヤサホーヤ。
唄がきこえる。眠らずに朝まで踊る。
ヤサホーヤ。
焚火を囲む。吐く息の白さが踊る。
解き放て！いのちで笑え！
満月の夕べ。



星が降る、満月が笑う。
焼け跡を包むようにおどす風。
解き放たれ、すべてを笑う。
乾く冬の夕べ。

ヤサホーヤ。
唄がきこえる。眠らずに朝まで踊る。
ヤサホーヤ。
三線鳴らす。吐く息の白さが踊る。
解き放て！いのちで笑え！満月の夕べ。

：
：

BACK ISSUES

- 救世主になりたい援助職 27 2017年3月
事件について 26 2016年9月
クルマ社会と福祉政策 25 2016年6月
施設が求める「障害者像」はあるのか？ 24
2016年3月
連絡帳 23 2015年12月
におい 22 2015年9月
作業着 21 2015年6月
食べる 20 2015年3月
通勤 19 2014年12月
クスリの作用、人の作用 18 2014年9月
倫理観でかたづけられる暴力 17 2014年6月
触れる 16 2014年3月
対談企画「教育と福祉の連携を模索する」2014年3月
情報の格差 15 2013年12月
20年前のノートから 14 2013年9月
そうじのねらい 13 2013年6月
個別化の暗部 12 2013年3月
グループワークの視点 11 2012年12月
実習生がやってきた！ 10 2012年9月
月曜日のせいやな 9 2012年6月
所得を決める福祉職？ 8 2012年3月
世界とつながる社会福祉現場 7 2011年12月
この現場へのたどり着き方 6 2011年9月
障害を持つ友達と過ごすとは？巻末座談会
2011年9月
旅行がない！ 5 2011年6月
職員の脳内回路 4 2011年3月
たかがガムテープ、されどガムテープ 3
2010年12月
利用者が仕事上の戦友 2 2010年9月
障害者自立支援法で不景気に！？ 1 2010年6月